

## 2023 年度 小委員会活動成果報告

(2024 年 2 月 7 日作成)

|                              |   |                                |                                |
|------------------------------|---|--------------------------------|--------------------------------|
| 小委員会名                        | 建築設計計画評価小委員会  |                                | 主 査 名：脇坂 圭一<br>就任年月：2022 年 4 月 |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会)          | 建築計画委員会<br>(設計計画・構法計画運営委員会)   |                                | 委員長名：清家 剛<br>主 査 名：小見 康夫       |
| 設 置 期 間                      | 2022 年 4 月 ～ 2024 年 3 月   |                                |                                |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画<br>(箇条書き) | <p>現代建築作品を通して有効な設計方法論を求め、建築計画学の新しい枠組みを構築することを目的として、建築計画学から現代建築作品を評価する方法を検討するとともに、建築設計の質的向上に貢献するための成果の発信・還元を継続的に行う。</p> <p>初年度：具体的な建築作品や建築的動向を対象とした調査・検討から、討議を行い、公開研究会を開催する（年度末）。</p> <p>2 年度：「建築計画学からの作品評価方法の構築」へ向けたまとめ・発信、作品の調査・検討、活動のまとめ、公開研究会の開催（年度末）。</p> |                                |                                |
| 委員構成<br>(委員名(所属))            | <p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：脇坂圭一（静岡理工科大学）<br/>幹事：古澤大輔（日本大学）<br/>委員：泉幸甫（日本大学）、伊藤暁（東洋大学）、宇野求（東京理科大学）、加茂紀和子（みかんぐみ）、岸本達也（慶応義塾大学）、光嶋祐介（光嶋祐介建築設計事務所）、佐藤慎也（日本大学）、山道拓人（法政大学）、鈴木雅之（千葉大学）、田所辰之助（日本大学）、服部岑生（NPO ちば地域再生リサーチ）、広田直行（日本大学）</p>                                    |                                |                                |
| 設置 WG<br>(WG 名：目的)           |   |                                |                                |
| 2023 年度予算                    | 135,000 円   | ホームページ公開の有無：無<br>委員会 HP アドレス：無 |                                |

| 項 目                                       | 自己評価   |
|---|--|
| 委員会開催数                                    | 2 回（年度内計画を含む）  |
| 刊行物<br>(シンポジウム資料等は除く)                     |  |
| 講習会                                       |  |
| 催し物<br>(シンポジウム・セミナー等)<br>*能力開発支援事業委員会承認企画 |  |
| 大会研究集会                                    |  |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等                        |  |
| 目標の達成度<br>(当初の活動計画と得られた成果との関係)            | <p>1. 初年度は、1 回目として、新委員として迎えた山道拓人氏により「ボーナストラック」の企画・設計・運営にわたる方法論をレクチャー形式にて紹介いただき、討議を行った（2022 年 12 月 1 日）。2 回目は、国立近現代建築資料館の小林克弘氏により、開催中の原広司展を題材にレクチャー形式にて紹介いただき、討議を行った（2023 年 3 月 13 日）。2 年度は、幹事でもある古澤委員の自邸であり多数のアワードを受賞している「古澤邸」を訪問・見学し、討議を行った（2023 年 10 月 8 日）（この間、zoom 開催もあり）。</p> <p>2. この間、平行して、「建築家の自邸」に関する企画・検討を進め、出版社との打合せを通して、企画会議に向けて出版物の構成を再検討すると共に、委員会において内容の精査しているところである（2 回目として予定）。</p> |
| 委員会活動の問題点・課題                              | コロナ禍を経て zoom のみであった委員会活動が対面で開催できることとなり、実際の空間訪問あるいはレクチャーを通じた討議が活発化している。こうした議  |

論を、website や出版物で対外的に発信していくことが求められる。

2. 新委員を迎え、これまでとは違った視点からの意見により討議も幅を広げ、あるいは深みを増している。設計や計画を評価するためのクライテリアや射程、あるいは方法論を発信していくことが求められる。